

総務省

10

月号
October
2026 年
Vol.310

P8 地方のかがやき
太田市

表紙の写真：オープンハウスアリーナ太田は、群馬クレインサンダーズのホームアリーナとして、B.LEAGUEの試合や多彩なイベントで親しまれています。

P2 特集

AIの進展がもたらす 多面的影響

～人間とAIが健全に協働するデジタル社会の実現に向けて～
- 令和8年版情報通信白書の概要について -

P12 MIC NEWS 1

気になる数々、答えて未来へ
統計調査

P14 MIC NEWS 2

10月18日は「統計の日」

P15 地域DXのヒント

自治体情報システムの標準化

AIの進展がもたらす多面的影響

～人間と AI が健全に協働するデジタル社会の実現に向けて～

- 令和 8 年版情報通信白書の概要について -

総務省は、本年7月、令和8年版情報通信白書を公表しました。

情報通信白書は昭和 48 年に前身の通信白書を公表して以来、今回で 54 回目の公表です。

本白書では、情報通信技術（ICT）分野における市場の動向やデジタル活用の現状を概観し、

情報通信政策の現状と課題、今後の方向性等を整理するとともに、

特集テーマを定め、関連するトピックを取り上げています。



電子書籍を無料で提供しています

情報通信白書電子書籍ダウンロードページ

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/e-book/index.html>

※アプリや電子書籍のダウンロードにかかるデータ通信料はご利用者の負担となります。



令和8年版情報通信白書 特集

今回の白書では、「AIの進展がもたらす多面的影響～人間と AI が健全に協働するデジタル社会の実現に向けて～」と題した特集を構成し、我が国の個人や企業における AI 利用の現状を海外調査結果も交えながら分析しつつ、企業における先進的な取組事例や、AI 利用を巡る最新の研究動向等を概観した上で、人間と AI が健全に協働するデジタル社会について展望しています。本稿では、同特集の概要についてご紹介します。

第1章

個人における AI 利用

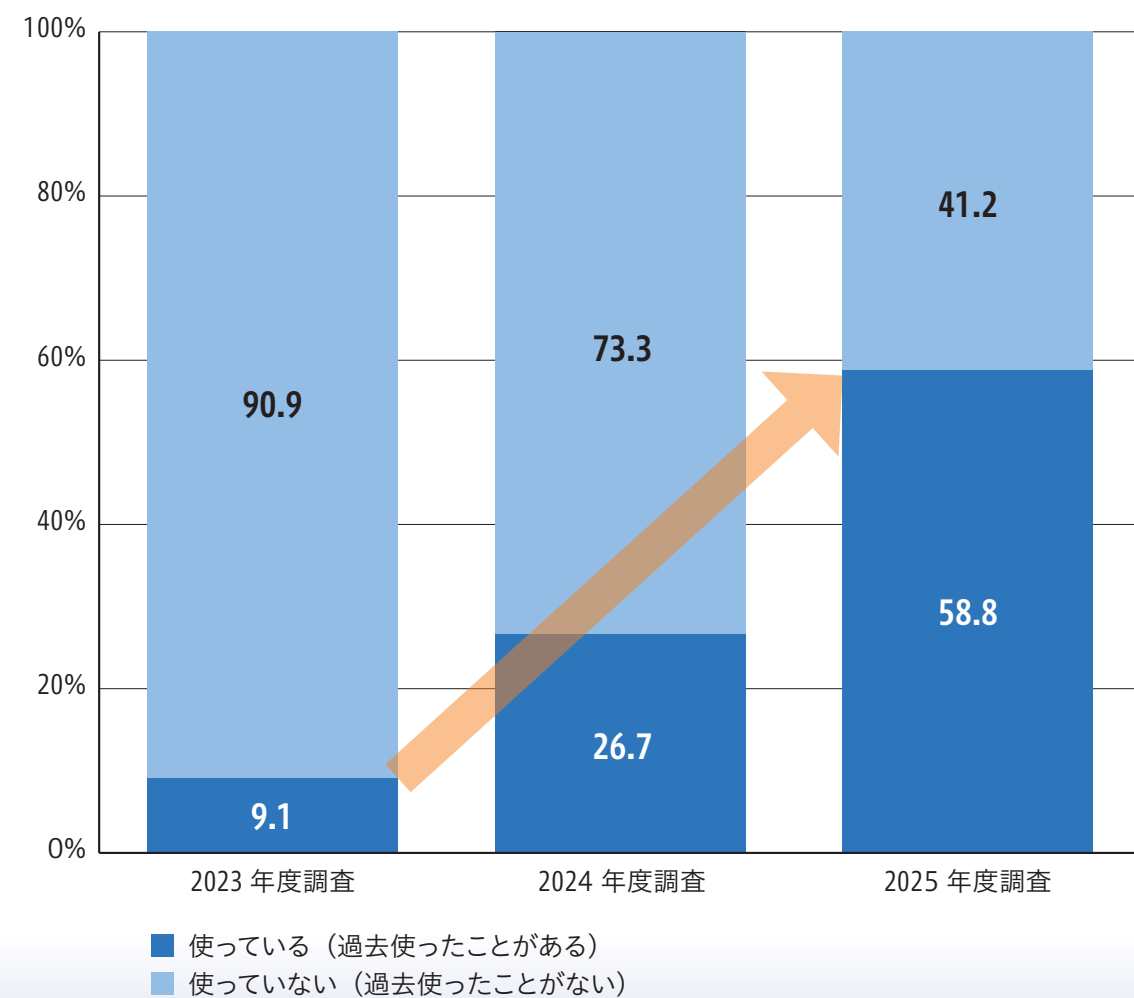
～ AI がもたらす行動様式の変化～

第1節

個人における AI 利用の現状

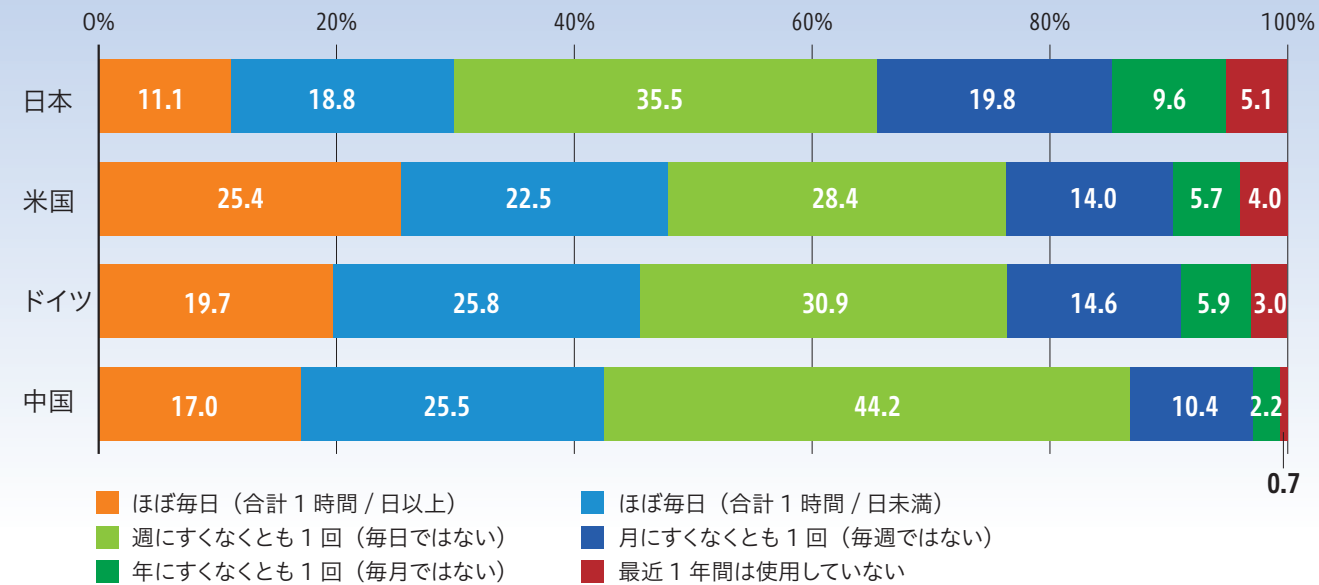
- ▶ 日本における生成 AI の利用率（利用経験率）は、他の3か国（米国・ドイツ・中国）より低いものの、今回の 2025 年度調査で 58.8%となり*、2024 年度調査（26.7%）に比べて大幅に上昇しています。
- ▶ 日本では「ほぼ毎日」利用すると回答した割合は約 3 割、「ほぼ毎日1時間以上」利用すると回答した割合に限っても1割超となり、いずれも他の 3 か国に比べて低い状況です。

● 日本における生成 AI サービスの利用経験（全体）



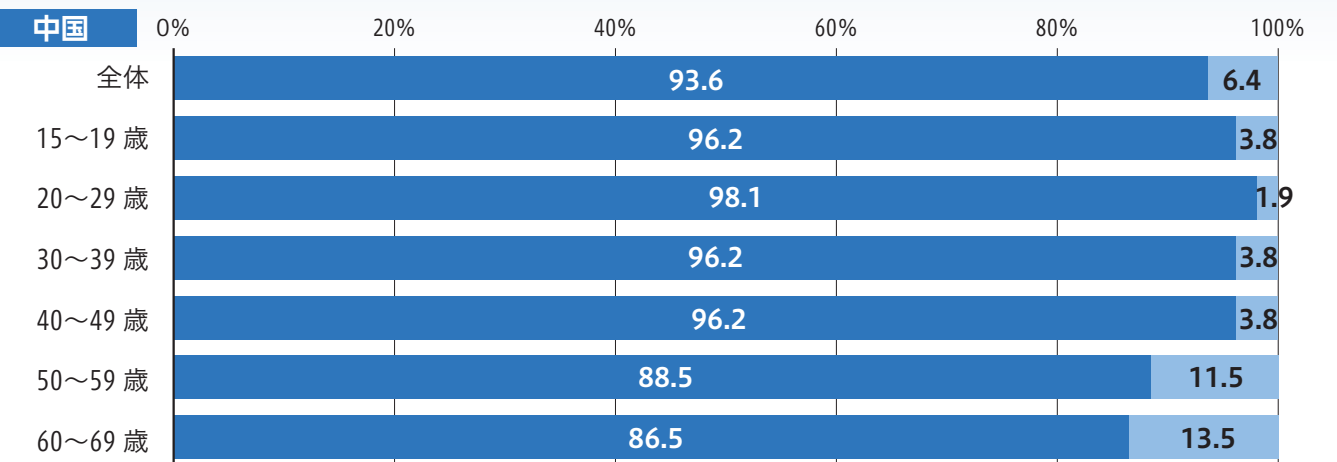
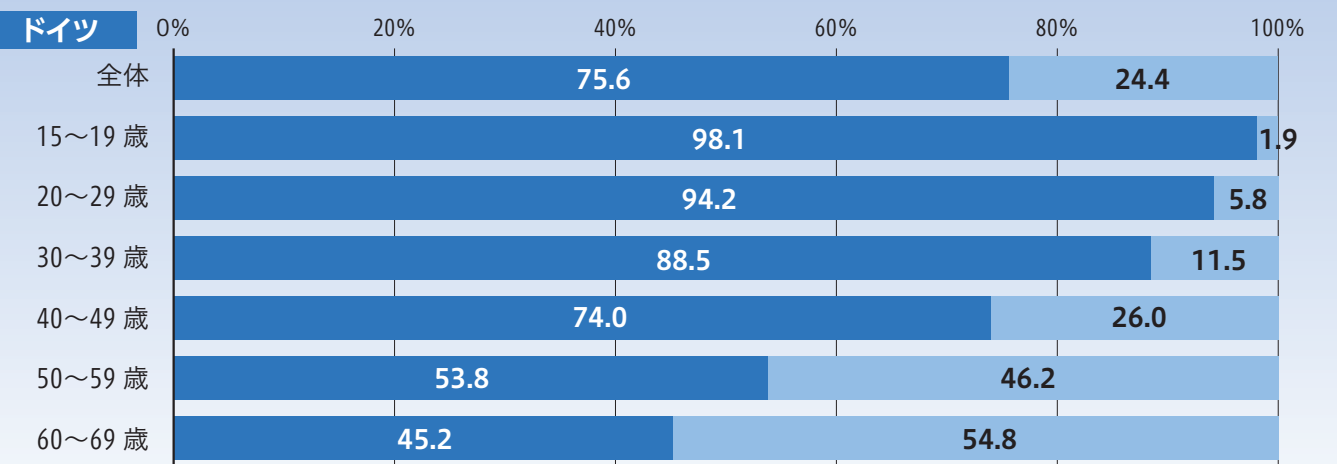
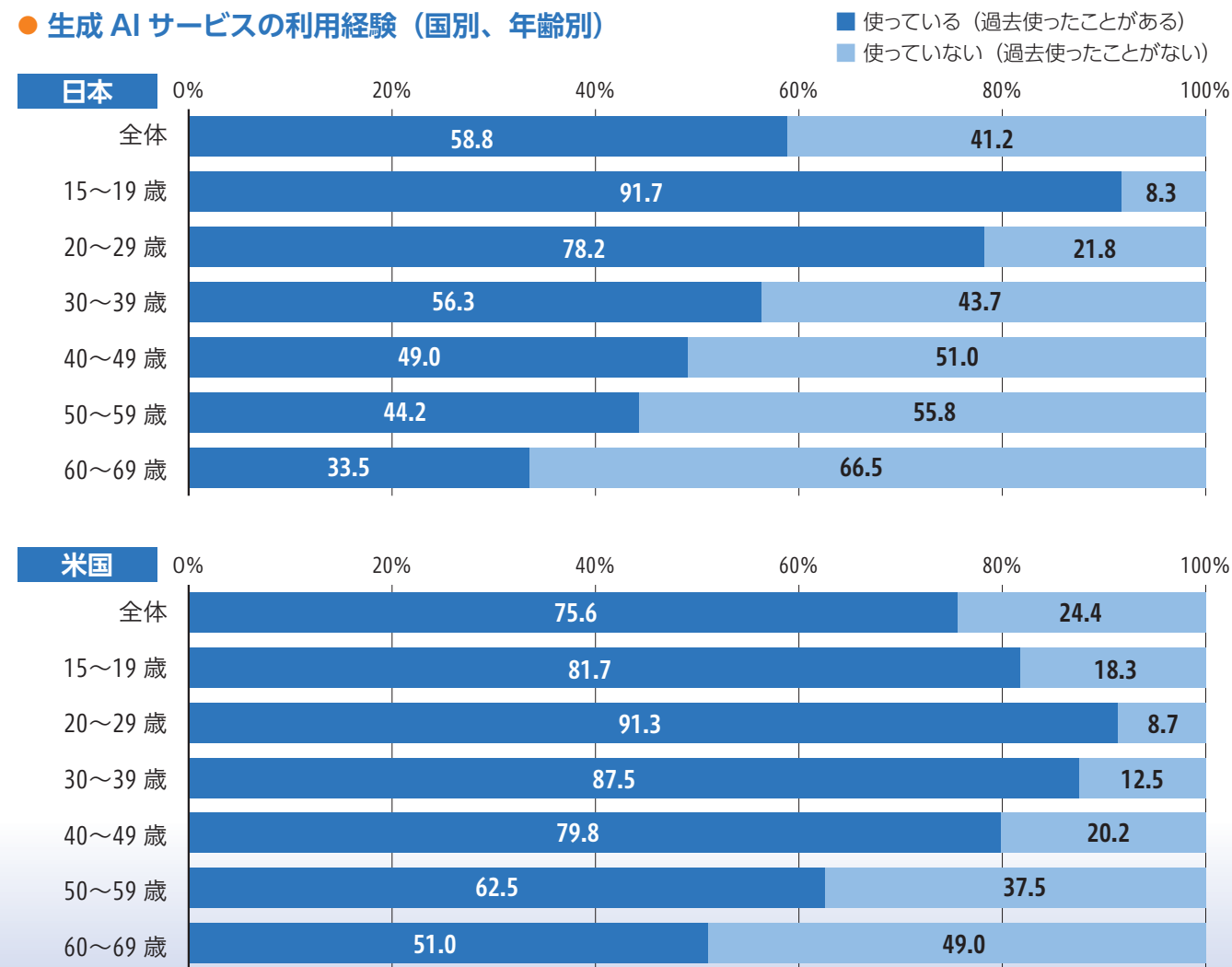
※ 2023 年度調査・2024 年度調査では、調査対象の年齢を 20 歳以上としていたが、2025 年度調査では、新たに 15～19 歳を調査対象に加えている。2025 年度調査において、20 歳以上の利用率（利用経験率）は 52.2% であった。

● 生成 AI サービスの利用頻度（国別）



- ▶ 年齢階層別に生成 AI の利用状況を見たところ、日本では 15 ～ 19 歳の利用経験率が最も高く、これに 20 ～ 29 歳、30 ～ 39 歳が続いています。
- ▶ 他の 3 か国でも、15 ～ 19 歳または 20 ～ 29 歳の若年層を中心として、生成 AI の利用経験率が高い傾向になっています。

● 生成 AI サービスの利用経験（国別、年齢別）



- ▶ 生成 AI に対する感覚について、「生成 AI はどのような存在か」を尋ねたところ、日本・米国・ドイツでは「機械・道具」と回答する割合が最も高く、中国では「秘書・アシスタント」と回答する割合が最も高い結果となりました。次に高い回答割合としては、日本では「辞書・百科事典」が続く一方で、米国・中国では「友人」が、ドイツでは「カウンセラー」が続いています。
- ▶ 生成 AI の利用率が高い 3 か国では、生成 AI を「機械・道具」「秘書・アシスタント」としてだけでなく、「友人」「カウンセラー」など感情を共有する相手として捉えている層が相当数存在することがうかがわれます。

● 生成 AI に対する感覚（生成 AI はどのような存在か）（国別）

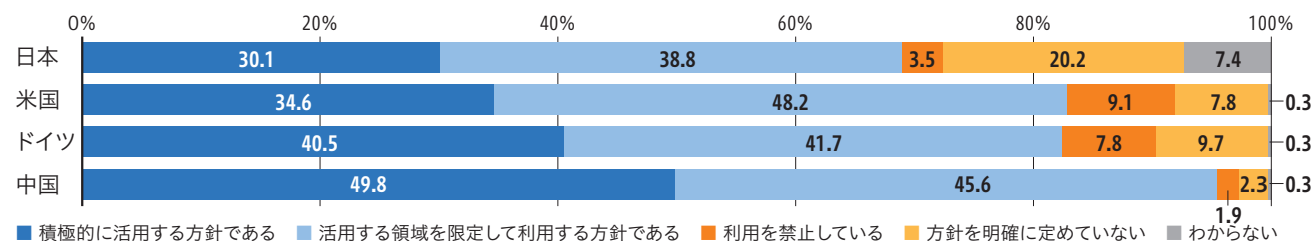
No.	日本	米国	ドイツ	中国
1	機械・道具 38.3	機械・道具 46.0	機械・道具 43.3	秘書・アシスタント 44.7
2	辞書・百科事典 28.9	友人 25.3	カウンセラー 41.0	友人 39.9
3	秘書・アシスタント 21.4	辞書・百科事典 24.5	辞書・百科事典 28.8	カウンセラー 38.1
4	カウンセラー 12.9	家族 21.5	秘書・アシスタント 22.8	辞書・百科事典 26.9
5	先生・コーチ 12.9	秘書・アシスタント 19.6	同僚 14.3	家族 22.1
6	友人 10.9	先生・コーチ 16.0	友人 14.1	機械・道具 21.2
7	自分を強化または拡張してくれる分身または一部 10.9	カウンセラー 11.5	先生・コーチ 12.7	同僚 20.7
8	家族 6.2	同僚 10.6	家族 12.5	自分を強化または拡張してくれる分身または一部 19.1
9	その他 5.3	自分を強化または拡張してくれる分身または一部 9.1	自分を強化または拡張してくれる分身または一部 7.2	先生・コーチ 16.2
10	同僚 4.0	恋人 9.0	恋人 6.1	恋人 6.6
11	恋人 2.8	その他 6.6	その他 5.8	その他 0.0

第2章 企業等における AI 利用の進展 ～より良い AI 利活用に向けて～

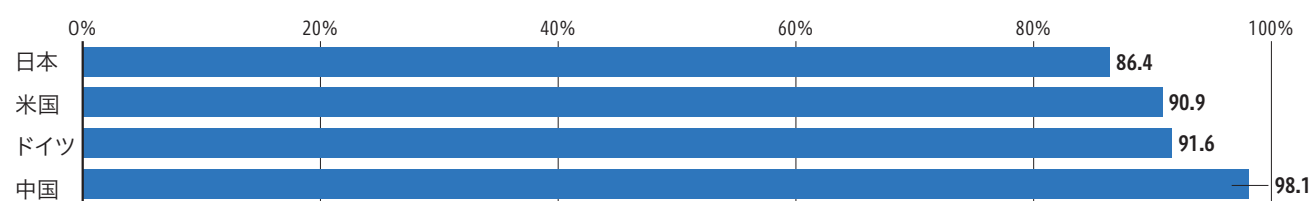
第1節 企業における AI 利用の現状

- ▶ 所属する企業における生成 AI の活用方針に関し「積極的に活用する方針」「活用する領域を限定して利用する方針」と回答した割合の合計は、日本は他の3か国より低いものの、2025 年度調査で 68.9% となり、2024 年度調査（49.7%）に比べて大きく上昇しています。
- ▶ 生成 AI の活用状況を尋ねたところ、日本において、自社の何らかの業務で生成 AI を利用していると回答した割合は 86.4% となり、2024 年度調査に比べて大幅に上昇し、他の 3 か国との差が小さくなりました。
- ▶ 他方、生成 AI による業務変革等について尋ねたところ、日本では「組織的な取組はない」と回答した割合が約 3 割弱となり他の3か国より高い結果となりました。

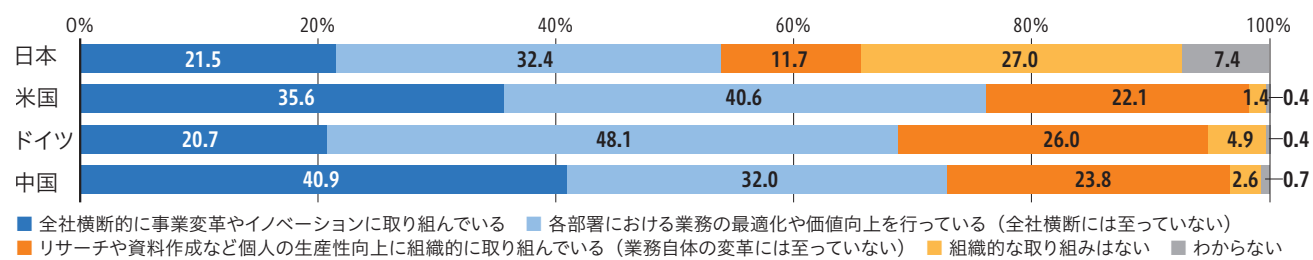
● 生成 AI 活用方針の策定状況（国別）



● 生成 AI を一つ以上の業務で利用している割合（国別）



● 生成 AI による業務変革等に関する組織的な取組状況（国別）



第2節 最近の研究開発・社会実装動向

- ▶ AI 分野は日々新たな技術やモデルが発表されるなど、目覚ましく技術革新が進んでいる分野です。
 - ・小規模言語モデル（SLM:Small Language Model）は、その軽量性と通信を必要としない特性を生かし、端末内で処理を行うエッジ AI としての利用など多様な活用が期待されています。
 - ・フィジカル AI が発展することで、人間のように様々なタスクをこなせるようになり、部品や組立て方法の異なる製品を、一台のロボットで製造可能となることなどが期待されています。



<フィジカル AI の例：小型輸送ロボット（Preferred Robotics）と実装シーン>

第3節 公共機関における状況

- ▶ 政府では、デジタル庁において、政府職員が安全・安心に AI を活用できる基盤（ガバメント AI）の開発、実証等に取り組んでいるとともに、経済産業省や総務省との協力の下、生成 AI のガバナンス、各府省庁における調達・利活用時のルールに係る考え方をガイドライン化し、国の政府職員等向けに示しています。
- ▶ 地方自治体においても、生成 AI を含めた AI の実証・導入が進められており、職員業務の効率化や質の向上だけでなく、住民への担当部署の適切な案内、観光スポットの提案等、住民利便の向上にも AI が活用されています。

第3章 AI の進展に伴う課題と対応 ～人間と AI の健全な協働に向けて～

第1節 人間の記憶や思考能力と AI

- ▶ 現状、人間の記憶や思考能力に関して、AI の利用がポジティブな影響をもたらすと指摘する研究例と、AI に頼ることがネガティブな影響をもたらすと指摘する研究例の双方が発表されている状況です。
- ▶ 有識者は、「双方のナラティブを主張しうる中で、どのようなスタンスをとるのか、どのような価値を重視してどのような社会を目指すのかを議論し、姿勢、態度、在り方等を検討することが重要である」旨を述べています。また、別の有識者は、「人間と AI との“協働”によって、トータルとしての人間の能力は向上するのではないか」として、AI を使いこなすことを通じた、トータルでの能力向上に着目する視点を示しています。

第2節 人間の情報行動・情報空間と AI

- ▶ 第1章の個人向けアンケート調査結果からは、各国いずれも個人における AI 利用の多くが情報の理解を目的としているほか、日本では、若年層を中心に、情報の取得といった場面で利用する手段について、AI の比重が高まりつつあることが推察されます。
- ▶ AI の利活用を今後進めていくに当たっては、そのリスクに関する意識を高めていくことも引き続き重要であると考えられ、有識者は「今後生成 AI は人々が生活する上で欠かせないツールになるため、しっかりとリテラシーの啓発を行っていく必要がある」と指摘しています。

第3節 日本における AI ガバナンス

- ▶ AI に関する日本の制度的な取組については、2025 年 5 月に制定され同年 9 月から全面施行された AI 法や、同法に基づき閣議決定される AI 基本計画の下、各分野の実情に応じて整備された各種ガイドラインがあります。
- ▶ 総務省では、人々が生成 AI を適切に利活用できるリテラシーを自分自身で身に付けることができるよう、生成 AI の基礎知識、活用場面や入門的な使い方、活用時の注意点を紹介する「生成 AI はじめの一步～生成 AI の入門的な使い方と注意点～」を公表しており、誰ひとり取り残さない AI 社会に向けた環境整備に取り組んでいくこととしています。

第4節 人間と AI の健全な協働に向けて

- ▶ 人間と AI の健全な協働には、「信頼できる AI」の追求に加え、AI を過信も不信もせず、適切な距離感のもとに AI を信頼できる人間の理性的な力の涵養も不断に追求していくことが重要であると考えられます。



おしま 尾島ねぶたまつり

青森県弘前市との歴史的なつながりから生まれた、夏の風物詩。高さ7mにもおよぶ扇ねぶたと勇壮なねぶた太鼓の運行が見どころ。毎年8月14・15日に開催。



太田市 [群馬県]



豊かな自然と歴史のもとで

希望にみちた住みよいまちづくり

群馬県の南東部に位置する太田市は、人口約22万人を擁する県内第3の都市。利根川水系の豊かな水と広大な平野に恵まれ、徳川家発祥の地として知られています。現在は自動車産業を中心にものづくりが盛んな一方、野菜や米などの農業も盛んです。歴史と文化、産業、そして豊かな自然が調和したまちです。

じょうしゅう 上州太田焼そば

太田市は個性豊かな焼きそば店が集まる「焼きそばのまち」。各店それぞれに個性があり、好みの味を探すのも楽しみの1つ。



Ota-City

人口：221,744人（令和8年8月31日現在）
面積：175.54km²
URL：<https://www.city.ota.gunma.jp/>



かなやまじょうあと 金山城跡

戦国時代の山城で、堀切や土塁、石垣などの遺構が残る。山頂までのハイキングコースも整備され、歴史散策も楽しめる。



かんむりいなり 冠稲荷神社

天治2年（1125年）創建と伝わる古社。日本七稲荷の1つとして知られ、縁結びや子宝の神社として信仰を集める。



太田市美術館・図書館

太田駅北口前にある、美術館と図書館が一体となった全国でも珍しい複合施設。開放的で個性的なデザインで、カフェも併設。



八王子山公園

八王子丘陵の広大な公園。春には桜が満開になるなど、四季折々の自然を楽しめる。全長24mの滑り台などの遊具も充実。

太田市は、大手自動車メーカーを中心とする北関東有数の工業都市。製造業を支える外国人住民も多く、早くから多文化共生に取り組んできました。市役所に多言語による相談窓口を設置しているほか、国際交流ボランティア講座や日本語教室を定期的に開催。文化の違いを互いに尊重しながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めています。また太田市は、B1リーグに所属する男子プロバ

スケートボールチーム「群馬クレインサンダーズ」の本拠地としても注目を集めています。令和5年4月に完成した新ホームアリーナを中心に、試合観戦やイベントなどで市内外から多くの人が集まり、まさに活気が生まれています。毎年8月には40年以上の歴史を持つ「尾島ねぶたまつり」を開催。地域に根付いた伝統行事として、世代を超えて多くの人に親しまれています。



エアリススケートパーク太田

令和6年に誕生した、滑走面積約3,000m²を誇る北関東最大級のフルコンクリート施設。スケートボードなどのスポーツを楽しめる。

エアリススペース

漫画約18,000冊を所蔵する図書館に加え、保健センターとサービスセンターを擁する複合施設。屋上には芝生のテラスもある。



ドッグパークおた

令和8年2月にオープンした広大な芝生のドッグパーク。犬専用のシャワーやトイレ、木製シーソーなどの設備も充実している。

太田市の野菜

太田市の特産品である大和芋やフルーツトマトをはじめ、多彩な野菜を生産。多くは首都圏の市場に出荷されている。

おきりこみ

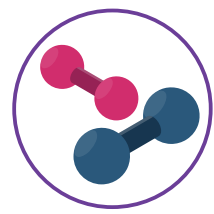
小麦粉で作った幅広の生麺を旬の野菜やきのこなどと一緒に煮込んだ郷土料理。



やまこふん はにわたかじょう オクマン山古墳出土の埴輪鷹匠

太田市城西町のオクマン山古墳から、鷹匠などをかたどった多くの形象埴輪が出土した。その一部は、新田荘歴史資料館に展示されている。





高齢者の生きがい・健康づくりを支援

シニアeスポーツ推進事業



音楽に合わせて太鼓を叩くリズムゲームは、初心者でも楽しめるという人気。

高 齢者の社会交流を促進するため、「シニアeスポーツ」を推進しています。社会福祉協議会のイベントやシニアサークルなどに市職員と講師を派遣し、機材を無料で貸与。講師は障害者就労施設の利用者が務め、障害者雇用にもつながっています。

参加者は令和5年の約250人から令和7年は約800人、令和8年は8月時点で1,000人に達しました。市では孫とペアで参加するミニ大会や商業施設でのレース大会なども開催し、仲間づくりや世代間交流に加え、認知機能の維持・向上も期待されています。



令和8年7月から、市内認可保育施設で働く保育士などのこども（0～2歳児）の保育料無償化も実施。

市 内の保育園などで0～2歳児を対象に、おむつとおしりふきの使い放題サービスを導入。おむつの管理の負担が軽減され、保護者と園から好評を得ています。

加えて、保護者のリフレッシュを目的とした一時預かり「パパママリフレッシュ事業」や小中学校の給食費無料化、小学生の放課後の居場所「こどもプラッツ」の設置なども展開。令和8年9月からは、認可保育施設に通う0～2歳児の保育料を半額にする事業を実施しています。



保育園等のおむつを公費負担
「おむつのサブスク」



市民の意見を市政に反映
「おおた未来デザイン会議」

約 10年にわたり実施してきた住民が行政の課題を「自分ごと」として議論する「自分ごと化会議」を「おおた未来デザイン会議」としてリニューアル。無作為抽出で選ばれた市民が「市民判定人」として参加しました。会議では、市が事業について説明し、外部委員と担当職員が質疑応答を実施。市民判定人は「拡充」「現行通り」「要改善」など5つから選んで投票し、意見を述べる時間も設けられました。結果はその場で集計・提示され、法的拘束力はないものの、可能なものは令和9年度の当初予算や事業改善に反映される予定です。



令和8年8月に行われた「おおた未来デザイン会議」の様子。市民は申込不要で傍聴することもでき、開かれた雰囲気。



多言語での相談に対応

外国人市民相談窓口



対面ならではの安心感を生かした通訳・相談を提供。ハローワークの出張相談も実施している。



「多文化ふれあいフェスタおおた20」の様子。民族舞踊の披露や交流ゲーム、キッチンカーの出店など、多彩なイベントを実施。

外 国人市民の高齢化や多様化に対応するため、市役所で外国人市民相談窓口を開設。ポルトガル語、英語など5言語に対応する職員を配置しています。相談内容に応じて担当課へ同行して通訳するほか、必要に応じて18言語に対応するタブレット端末を使ったオンライン通訳システムや音声翻訳機も活用しています。また、外国人が理解しやすい「やさしい日本語」の普及にも努め、全庁職員を対象に講座を実施。窓口業務や地域での円滑な意思疎通につなげています。

ものづくりと豊かな歴史
充実の子育て支援が
太田の魅力です



太田市長
穂積 昌信

太田市は、ものづくりのまちとして発展する一方、県内第3位の農業産出額を有し、小玉スイカや大和芋などの特産品にも恵まれています。市内では国宝「埴輪 埴甲の武人」をはじめ、多くの埴輪が出土するなど、豊かな歴史も魅力です。また、すべての小中学校の体育館にエアコンを完備し、0～2歳児の保育料を

半額にするなど、ハード・ソフトの両面から子育てを支援しています。加えて、古くから外国人住民も多く、多文化共生も太田らしさのひとつです。

こうした多様な魅力を生かしながら、企業や団体、学校、地域の方々との連携を推進。従来の枠組みを超えて新たな価値を生み出すよう、挑戦していきます。



市民ライターが創るガイドブック「OTA magazine」。冊子は公共施設で配布するほか、デジタル版も公開。

おいしい野菜も
おしゃれなカフェも
なんでもあるまち

魅力がいっぱい！
太田市の
いち押し

市民ライター
齊藤 あおいさん

「OTA magazine」の市民ライターをしています。既存メディアとは違う角度から地域を深掘りした記事は好評で、活動を通して知り合いも増えました。まちおこしをするために東京から戻ってきたUターン組ですが、改めて感じるのは太田の暮らしやすさ。野菜がおいしく、おしゃれなカフェが多く、物価も安い。肩の力を抜いて暮らせるまちです。



国が毎月実施する調査です

気になる数々、答えて未来へ



統計調査



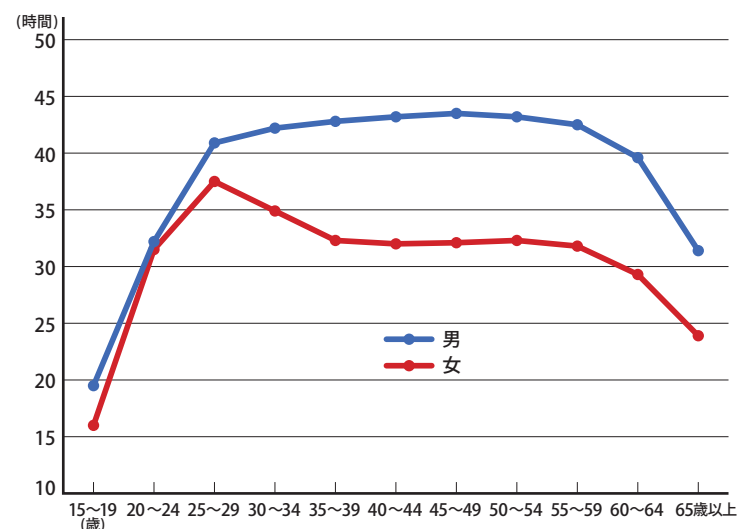
総務省統計局が毎月実施している統計調査には「労働力調査」、「家計調査」、「小売物価統計調査」があります。その結果は、「完全失業率」や「世帯の消費支出」、「消費者物価指数」などとして毎月公表され、国民の共有財産として経済の発展や生活の向上に活用されています。

また、私たちの暮らしや社会の様相をあらわす様々なデータとして、新聞やテレビなどでも取り上げられています。

雇用が見える 労働力調査

雇用の実態を調べ「就業者数」や「完全失業率」などを明らかにする調査です。結果は、雇用対策や景気動向を判断する資料として活用されています。

年齢階級・男女別の1週間の平均就業時間（2025年）



1週間の平均就業時間は？

1週間の就業時間について、男女の年齢階級別にみると、男性は45～49歳（43.5時間）が最も多く、女性は25～29歳（37.5時間）が最も多くなっています。



総務省統計局ホームページ
～労働力調査・家計調査・小売物価統計調査のご紹介～ <https://www.stat.go.jp/info/kouhou/keijyou.html>



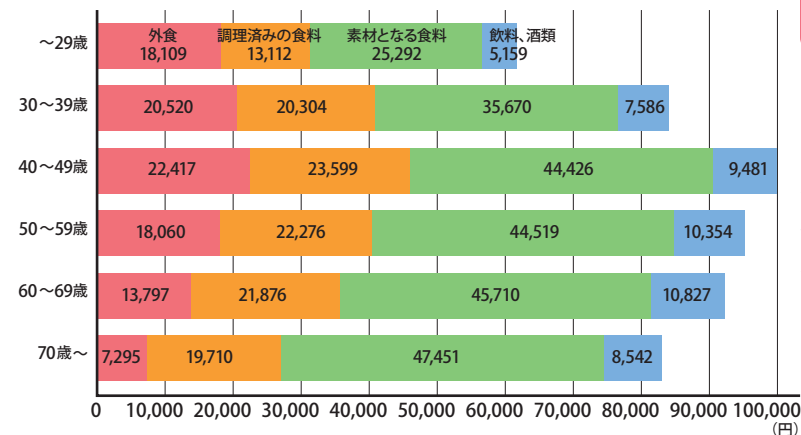
インターネットでの回答が可能です 皆様の個人情報は厳重に保護されます
！ 統計調査を装った「かたり調査」にご注意ください 調査の結果は、暮らしをより良くする様々な取り組みに活かされています

※センサスくんのみらいちゃんは総務省統計局のイメージキャラクターです。

家計が見える 家計調査

家計の収入と支出の実態を明らかにする調査です。結果は、年金制度の検討や医療費算定の資料として活用されています。

世帯主の年齢階級別1か月間の食費（二人以上の世帯）（2025年）

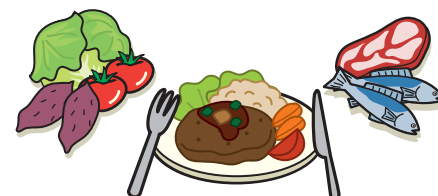


調理済みの食料：菓子類、調理食品
素材となる食料：穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、果物、油脂・調味料



家族のひと月の食費は？

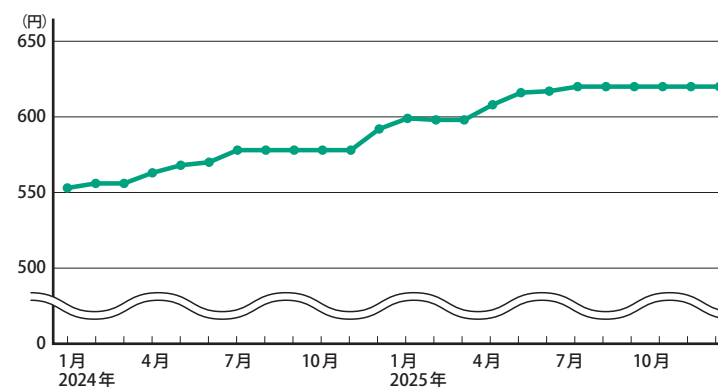
二人以上の世帯について、世帯主の年齢階級別に食費の内訳をみると、「外食」の支出は40～49歳で最も多くなっており、野菜や魚介類などの「素材となる食料」の支出は70歳以上が最も多くなっています。



物価が見える 小売物価統計調査

商品の価格、サービスの料金の変化を明らかにする調査です。調査結果は、消費者物価指数等として、年金額の改定をはじめとする各種施策に活用されています。

「コーヒー（喫茶店）」の価格の推移 東京都区部（2024年1月～2025年12月）



喫茶店内で飲むブレンドコーヒーやアメリカンコーヒーなどを調査しています。※アイスコーヒーは含まれません。また、セルフサービス店・コーヒースタンドで販売されるコーヒーは含まれません。



喫茶店で飲んだコーヒーの価格は？

「コーヒー（喫茶店）」の価格は、2024年から2025年にかけて上昇傾向で推移し、2025年12月には620円となっています。



結果から
いろいろなことが
みえてきます



これら3つの統計調査は、暮らしや社会の実態を反映し、国や地方公共団体が政策を行う際の重要な判断基準になります。

また、調査結果は、国民の共有財産として、研究・教育活動、経済活動などの幅広い分野で利用されています。調査の対象になるのは、統計的な方法によって選定され

た一部の世帯や事業所で、誰もが対象になる可能性があります。

私たちみんなのより良い暮らしのためには、一人ひとりの回答が不可欠です。統計調査の重要性をご理解いただき、ご回答をお願いします。

10月18日は「統計の日」

我が国で最初の近代的生産統計である「府県物産表」に関する太政官布告が公布された日をもとに、毎年10月18日を「統計の日」としています。これは、統計の重要性に対する関心と理解を深め、統計調査に対する国民のより一層の協力を頂けるようにと昭和48年に閣議了解で定められました。総務省政策統括官（統計制度担当）室では、各府省、地方公共団体等と連携し、この「統計の日」を中心として、各種関連行事を開催しますので、ご紹介します。

「統計の日」標語・ポスターの作成

総務省では、「統計の日」（毎年10月18日）の周知を図るため、毎年、「統計の日」のポスターをはじめとする広報媒体に活用すべく、標語を募集しています。

今年は、令和8年2月1日から4月30日にかけて募集を行ったところ、13,173作品もの応募いただきました。これらの応募作品について、数次にわたる審査の結果、山形県立谷地高等学校3年生の齋藤美音さんの作品「今をデータに、未来をカタチに。」を特選作品に決定しました。

この特選作品を活用したポスターを作成し、地方公共団体にご協力いただき、全国の公共施設・学校等で掲示するほか、総務省のホームページ等に掲載するなど、幅広く活用される予定です。



統計データ・グラフフェアの開催

「統計データ・グラフフェア」は、統計グラフ全国コンクールの入賞作品や各府省の統計調査に関する資料の展示、都道府県による統計データを用いた企画資料の展示のほか、「統計で振り返る昭和100年」の資料展示、統計関連コンテンツ体験コーナーなどを設け、統計の面白さを感じていただけるイベントを開催します。ぜひ、ご来場ください。

- 日時:
10月17日(土)
10:00 ~ 20:00
10月18日(日)
10:00 ~ 17:00
- 場所:
新宿駅西口広場
イベントコーナー



第74回全国統計大会

令和8年11月18日(水)、国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール（東京都渋谷区）において、「第74回全国統計大会」を開催します。

全国統計大会は、国、地方公共団体、統計関係団体などの統計関係者が一堂に会し、統計調査功績者への各省大臣表彰など、各種表彰を行う予定です。

「統計の日」標語 特選・佳作作品

【特選作品】

- 高校生の部 **今をデータに、未来をカタチに。**
(山形県立谷地高等学校 3年 齋藤 美音)

【佳作作品】

- 小学生の部 **統計を活かして変えよう 僕らの未来**
(茨城県五霞町立五霞小学校 5年 松本 啓佑)
- 中学生の部 **データは語る。読み取る力が未来をつくる。**
(大阪教育大学附属平野中学校 2年 佐藤 圭)
- 一般の部 **データからひも解く現状 つながる未来**
(鹿児島県 河野 雄介)
- 統計調査員の部 **統計で知る、調査で見える、暮らしと社会**
(滋賀県日野町統計調査員 奥野 時也)
- 公務員の部 **小さなデータ、大きな力。あなたの協力が社会を変える**
(島根県隠岐支庁県土整備局 山野内 征史)

注1 作品は、応募されたままの形式で掲載している。
注2 敬称略、学年・所属等は令和8年6月現在。



自治体情報システムの標準化

地域DXのヒント第30回は、自治体情報システムの標準化について解説します。

令和3年に成立した地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づき、自治体は、住民基本台帳、個人住民税などの20業務の情報システムを標準化基準に適合した標準準拠システムへ移行することが義務付けられています。人口減少社会において、制度改正に伴うシステム改修を個別団体が独自に発注する人的負担を減らすとともに、システムの共同利用や

機能・データに係る標準の策定を通じたベンダロックイン防止等による効率化を図り、地域の実情に即した住民サービスの向上に注力できるようにするとともに、新たなサービスの迅速な展開を可能とすることを目指しており、原則としての移行期限である令和7年度末までに約70%のシステムの移行が完了しました。

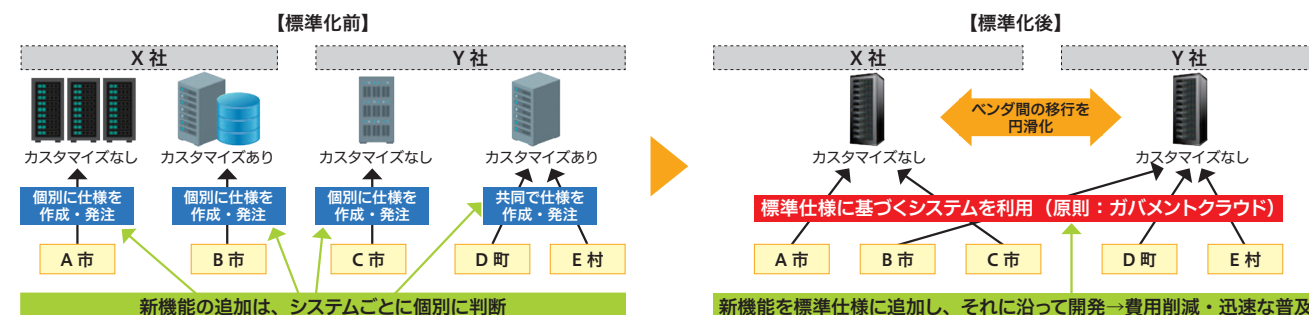
総務省では、自治体が標準準拠システムへ円滑かつ安全に移行することができるよう、移行経費に対する財政支援として、令和7年

度補正予算で559億円を追加計上しており、これまでの予算総額は7,742億円となっています。

加えて、具体的な移行工程などを整理した移行手順書の提供、自治体に対して無償で標準化の専門アドバイザー派遣などの取組を行っています。

今後の移行が予定されているシステムについても、円滑かつ安全な移行を目指し、自治体の実情やご意見を丁寧に伺いながら、引き続き自治体の取組を支援していきます。

情報システムの標準化イメージ



編集後記

10月号をお読みいただき、ありがとうございます。

今回の地方のかげやきで紹介した群馬県太田市は、北関東有数の工業都市として発展しながら、豊かな自然と暮らしやすさを併せ持つ、ものづくりのまちです。また、製造業の発展とともに多くの外国人市民を受け入れてきた歴史があ

り、多様な文化や価値観が共生する多文化共生のまちでもあります。太田市では、子育て支援にも力を入れており、こどもたちが安心して成長できる環境づくりを進めています。さらに、今では全国の自治体に広がっているシニアeスポーツについても、早くからその可能性に着目し、高齢者の健康

づくりや地域交流の促進に活用してきました。こうした取組を通じて、こどもから高齢者まで誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを推進しています。

末尾になりましたが、今回ご協力いただきました皆さまには心より感謝申し上げます。

(広報室 S.H)

● 広報誌「総務省」についてのご意見・ご要望は、電子メールでお寄せください

MAIL ▶ kohoshi@soumu.go.jp

国が毎月
実施する
調査です

気になる数々、答えて未来へ



統計調査



家計が見える

家計調査

家庭のお金がどのように使われているかを明らかにします。

調査の結果

1か月間の食料費

89,754円

(二人以上の世帯 2025年全国平均)



雇用が見える

労働力調査

人々が働いている状況、失業の状況などを明らかにします。

調査の結果

月末1週間の平均就業時間

35.9時間

(2025年全国平均)



物価が見える

小売物価統計調査

モノやサービスの価格の変化などを明らかにします。

調査の結果

喫茶店のコーヒー(1杯)

613円

(2025年東京都区部平均)

統計調査員がお伺いしましたら、ご回答をお願いします。



インターネットでの回答が可能です



皆様の個人情報は厳重に保護されます



統計調査を装った「かたり調査」にご注意ください



調査の結果は、暮らしをより良くする様々な取り組みに活かされています

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



詳しい情報はこちら

<https://www.stat.go.jp/>

統計局



総務省統計局・都道府県